

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 18 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520318

研究課題名（和文）『百科全書』ディドロ執筆項目本文研究：その「生命学」的展開

研究課題名（英文）Philological Analyses on Diderot's articles in the *Encyclopédie* : Philosophical Life Sciences Discourses

研究代表者

逸見 龍生（HEMMI TATSUO）

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号：60251782

研究成果の概要（和文）：

本研究は、ディドロによる「生命学」(sciences de vie)の分野での『百科全書』項目寄与の具体像を明らかにし、18世紀フランス啓蒙思想におけるその射程と意義を、本文批評的観点から実証的に示すことを目的として進められた。特に初期段階における本文研究を実施し、その結果、解明されない部分の多い『百科全書』揺籃期のディドロの思想的発展に関し、基礎的研究に立脚した新しい解釈を打ち出した。

研究成果の概要（英文）：

This philological study is to delineate the contribution of Diderot's Encyclopedia Articles, by focusing in particular those concerning life sciences, and to assess the scope and meaning of his words in Enlightenment thought. Analysis of the first volumes of this dictionary have informed the constituent aspects of the formation of philosophical and medical thought of Diderot, as the importance of knowledge of contemporary discourse as Universal Dictionary of Medicine, Robert James.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：フランス文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：ディドロ、18世紀フランス文学、啓蒙思想、百科全書

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は、1996年に『百科全書』ディドロ寄稿項目において引用が明示せぬまま利用された生命学的分野の典拠の一部を確定し、これをディドロ寄稿項目本文と比較する

材源研究によって、本文の生成過程を具体的に明らかにした。

ディドロによる『百科全書』執筆項目に関する本文批評研究は、これまで主に「哲学史」および「文法」（言語定義ないし言語認識論）

的な領域への寄与について進められてきた。ところが、医学・生理学を中心とする同時代の科学思想を核に、「生命」や「身体」に関する独自の唯物論哲学に昇華させた「生命学」に関わる項目へのデイドロの寄与の解明についての研究は、散見されてきたものの部分的なものに留まっていた。執筆者の上述の研究は、同領域における本文批評の未確定部分のいくつかを解明しようとしたものである。それはまた、まとまった『百科全書』本文批評研究としては、国内初の試みでもあった。

『百科全書』における「生命学」の主題をデイドロの執筆項目に即して進める研究がこれまで立ち後れてきたことには、理由がある。『百科全書』において哲学史や言語関連項目がほぼ独立したカテゴリーとして立てられているのに対し、医学・生理学にとどまらず、美学・哲学・文学・道徳学・政治学の諸相を含む「生命学」関連の諸項目は、必ずしも独立した分類項目の下に統合されておらず、自律的なコーパスとしての切り分けが難しかったのである。デイドロにおける「生命学」思想のこのような領域複合的な側面は、1998年-99年度の申請者の科研費採択研究（「デイドロと十八世紀『生命学』」採択番号10710238）明らかにされた点であった。

計画を進めるにあたり、申請者は次のような予備的成果をえている。

『百科全書』本文データベース構築をめぐる文部科学省調整費受託研究において研究代表者として研究プロジェクトを組織し、また同研究を引き継ぐ科研費研究に研究分担者として参加して行なってきた、『百科全書』本文データの蓄積を推進する研究。本文については第7巻までデジタル撮影を終えた。

『百科全書』本文研究の理論的枠組みの進展。

デイドロ執筆項目をモデルとした『百科全書』本文批評校訂研究。

仏国立図書館所蔵刊本ジェームズ医学万有事典とデイドロ執筆項目本文との比較照合。

慶應義塾大学所蔵『百科全書』パリ版本本文の異同研究。

名古屋大学所蔵『百科全書』ジュネーヴ版本本文異同研究。

本応募研究では、以上の研究成果を発展させ、デイドロ思想研究上の欠落部分であった『百科全書』における「生命学」に関わる領域を網羅的に調査し、これまでその位置づけの明確にされてこなかったテキスト群を系統的に分析した。これによって、『百科全書』編纂期におけるデイドロの「生命学」の展開が明らかにされた。

## 2. 研究の目的

『百科全書』研究においては、その基盤となる本文研究は遅れた状況にある。同書は150名近くの執筆協力者の寄稿によって成立したが、原稿はほぼすべてが散逸しており、研究者・読者の多いデイドロ執筆項目についてすら、その本文校訂はなお不徹底である。

本研究の目的は、デイドロ執筆項目を申請者の蓄積してきた本文研究の方法論で解析し、その基盤上で『百科全書』における「生命学」関連の諸項目を初めて体系的に読み解こうとすることである。またデイドロの唯物論における『百科全書』編纂期の役割を解明し、『百科全書』研究に新たな理論的枠組みを与えることである。本研究の独自性は、共同性・集団性に支えられた辞書という、文学・思想研究において従来取り上げられることの少ないテキスト群を対象に、その構造の特性と生成の具体像を厳密な方法的視座に照らして解明することである。

## 3. 研究の方法

本研究では、対象を『百科全書』全体ではなく、デジタル処理を終えた第1巻から第7巻までに限定した。その上で、『百科全書』本文に固有の問題を解明する部分と、デイドロの「生命学」の展開を照らし出す部分との、二つの側面から研究を進めた。

『百科全書』デイドロ執筆項目の本文の位相、すなわちその分類、典拠、参照項目や、また執筆者のみならず、他の執筆者の執筆項目への編纂者としての寄与などを含む全体像を構造的に解明した。執筆者不明である無署名項目や、著者記号の誤記と思われる項目に踏み込み、デイドロの執筆項目の新たなコーパスを構築した。

同時代の医学・生理学文献を始め、デイドロが利用している生命学分野の材源を特定し、『百科全書』本文との異同を解明した。また、デイドロの「生命学」概念が、百科全書的知の連鎖においていかに複合的、重層的なネットワークとして展開しているか明確にした。

## 4. 研究成果

(1)『百科全書』デイドロ執筆項目に関する従来の研究の問題点を見直し、書誌学的な再検討を加えることにより、本文の位相を新たに多角的に解析した。ここでは特に、

各項目がいつ、どのような方法で書かれたか、その本文生成に関わる研究、

辞書としての『百科全書』の特異なテキスト構造に直結したさまざまな特性特に本文がいかなる分類体系のなかに位置づけられているかを解明する、分類体系研究、

同じく、本文中に他の項目への参照指示がどのように、いかなる頻度でなされているか

を系統的に分析する参照研究、の三つの観点に即して検討し、その特徴をデータ化して導出し、特に次の点を取り上げた。  
**(2) 著者確定方法に関する新たな仮説の構築と検証。**

『百科全書』では一般に項目冒頭や末尾にその著者を示す符号がつけられているが、完全ではなく、欠落や誤記もある。従来デイドロ執筆項目として知られる項目以外に、数多くの項目にデイドロが関与している可能性があるが、未解明の部分が多い。上述(1)および次の(3)の成果により、デイドロの執筆項目として抽出されたものとはほぼ同型の本文構造(生成、分類、参照、典拠)を具えた無署名項目を特定、デイドロの執筆項目と同定した。

**(3) 同時代の医学・生理学文献など、典拠としてデイドロに利用されている周辺分野の材源の収集と探索、およびその解析。**

ジェームズ『医学万有事典』、パリ王立科学アカデミー「報告」および「摘要」、これに加え、『百科全書』が先行モデルとしたチェンバース『サイクロピーディア』を中心に解析を進めデイドロにおける「生命学」の複雑な概念的広がりとは多層性を明らかにし、『百科全書』期のデイドロの思想的発展に関する新提言を行なった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

Tatsuo HEMMI, La présence de James dans l'Encyclopédie: intertextualité et voix, 新潟大学人文学部研究プロジェクト「声とテキスト論」主催、『国際シンポジウム「声の制度」研究報告集』2012年4月, pp.59-88.

Tatsuo HEMMI, Les références implicites dans le supplément éditorial de l'article AME de Diderot, Recueil d'études sur l'Encyclopédie et les Lumières, n 1, mars 2012, pp.41-61.

逸見龍生「『百科全書』前史におけるジェームズ『医学総合事典』」『人文科学研究』第129輯、2011年10月, pp.T43 - T69.

Tatsuo Hemmi, « Pluralité des voix dans l'Encyclopédie », dans Voix et Modernités. Acte du colloque international du 15 - 16 mars 2010 (Université de Bordeaux III), Niigata, Faculté des Sciences Humaines de l'Université de Niigata, 2011, pp. 92-108.

逸見龍生「プラド師の弁護(一) 訳と注解」『フランス文化研究』(新潟大学大学

院現代社会文化研究科)第4号、2011年3月, pp.1-17.

Tatsuo HEMMI, Réorganisation des savoirs dans l'Encyclopédie. Sur un article de Diderot. 『フランス文化研究』(新潟大学大学院現代社会文化研究科)第3号、2010年3月, pp.39-49.

Tatsuo HEMMI, et al., Informatiser l'Encyclopédie, Recherches sur Diderot et l'Encyclopédie, n. 43, octobre 2009. (共著) pp. 41-44.

[学会発表](計7件)

Tatsuo HEMMI, "L'usage du dictionnaire de James dans l'Encyclopédie", dans le cadre du séminaire "Manufacture de l'Encyclopédie" de la Société Diderot, organisé par Marie Leca-Tsiomis (CSLF, Paris Ouest-Nanterre) et Irène Passeron (SYRTE, CNRS), 2012年3月10日 招待講演

Tatsuo HEMMI, "Les références implicites dans le supplément éditorial de l'article AME de Diderot", séance du séminaire de recherche de l'équipe THETA (Théories et Histoire de l'Esthétique, du Technique et des Arts), CNRS - Centre Jean Pépin (UPR 76), 2011年12月10日 招待講演

Tatsuo HEMMI "Stratégies discursives de l'Encyclopédie : témoignage et autorité" 新潟大学、新潟大学人文学部研究プロジェクト「声とテキスト論」主催、国際シンポジウム「声の制度」, 2011年9月16日

Tatsuo HEMMI "Sur la présence de James dans l'Encyclopédie", XIIIème Congrès de la Société Internationale d'Étude du XVIIIème siècle (SIEDS), le 27 juillet 2011, Graz University (Austria) (第13回国際18世紀学会・国際シンポジウム"Puiser aux sources de « l'Encyclopédie »" 2011年7月27日・グラーツ大学(オーストリア)招待講演

Tatsuo HEMMI "La pluralité des voix dans l'Encyclopédie", Voix et Texte, Colloque internationale organisée par l'équipe Modernité dans L'université Bordeaux 3, 2010年3月16日

逸見龍生 19世紀学会国際研究集会「ヨーロッパ・半島・日本 新しい「文化学」の構築を目指して」コーディネート・司会、新潟大学、2010年3月1日

逸見龍生、平成21年度秋季日本フランス語フランス文学会全国大会・ワークショップ「18世紀なるものから遠く離れて」

2009年11月8日・熊本大学（：タイトル「『百科全書』の言語戦略」）  
〔図書〕（計 件）  
〔産業財産権〕  
出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1) 研究代表者  
逸見 龍生 (HEMMI TATSUO)  
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授  
研究者番号：60251782